

レコード軽術

秋

2014
No.53

新聴45
謝罪記事

特別企画

「第九」と「九条」
「平和の歌」を公募



とじ込み
中央の要約記事

噴火によって人生を断たれた方々の無念さに想いを馳せ、ご冥福をお祈りいたします。



ヴェルディ「レクイエム」 消防庁音楽隊 陸上自衛隊音楽隊
全国山岳会有志連合管弦楽団・合唱団 指揮：~~安倍三振~~

上記CDの売り上げは避難設備の充実に寄与させていただきます。

不幸なことがありましたが、日本は世界有数の地熱資源の保有国。
我が社では地熱発電を原発に代わるベース電源へと努力しています。

上記CDお買い上げの方から100名様に御嶽山の地熱で発電した天然電気を蓄えた電池をプレゼントします。



(株) 木曾エネルギー研究所

自由を求める戦いと政治犯、戦争が招く別離、断ち切れない独立国への想い、… 音楽で問い直すそれぞれの心



特別企画アルバム「香港の雨傘」収録曲

「故郷の空」(スコットランド民謡)

「鳥の歌」(カタロニア民謡)

「鐘のキャロル」(ウクライナ民謡)

「シェルブールの雨傘」(M・ルグラン作曲、フランス)

45 聴新

謝罪記事について

91年、我が国の音楽批評畑の人たちを震撼させる記事が「新聴45」という45歳以上のクラシックファンをねらった雑誌に掲載された。「たいこもち批評家」という標題で、ペンネームを使つての執筆だ。この記事では、音楽批評家はCDの演奏評を聴きもしないで型にはまった形容詞を並べて仕事をした気になっていると述べ、著名な批評家を手当たり次第にこき下ろした。

そして、これらの批評家たちの原稿料の主な収入源となっているのが、「レコード芸

術」誌であり、その読者層はレコードマニアで一念凝り固まったような一部の連中であるとし、「レコード芸術」誌を読むのは不健康な連中であると言ひ捨てるばかりの論調で終わる。

書いたのはだれなのか、音楽の専門家には違ひないが出版界のことをどう理解しているのか、いろいろ論争が起こった。「レコード芸術」誌の読者を不健康呼ばわりされては当の編集部もたまつたものではない。編集方針にも少なからぬ影響を与えたのは否めない。

それから23年、音楽界の変化と共にリスナーも変化してきた。もっとも劇的な変化はインターネットの普及で新譜の評判が通販サイトの購入者のレビューという形式で

知ることができるようになったことである。大評論家の評論と素人のレビューのどちらを鵜呑みにするかは読者の責任だが、かつての批評家のスタイルは通用しなくなったと言つてよいだろう。

もう「新聴45」の「事件」は過去のもの
と忘れられかけていたが、このほど「たいこもち批評家」を執筆した本人から「レコード芸術」誌はほとんど読んでいず、その読者とは会ったことはないこと、そして、「一念凝り固まった」と表現したレコードマンAの名誉を傷つけたことを謝罪すると申し出があり、謝罪記事が「新聴45」に掲載された。

ある先入観があり、それをもとに現実と乖離した論説を展開したことは、「たいこも

ち批評家」でこき下ろされた音楽評論家のしたことと何ら変わらない。遅きに失したといえどそれまでだが、自らも同じ間違いをしていたことを認めたのは評価できる。

今回の一件は評論とメディアのあり方に関する深い闇に光を当てたとすれば無駄なことではなかったといえるかも知れない。



近年にしては長期にわたる常任指揮者の地位にある安倍の新譜。なじみのある管弦楽曲が並べられている。安倍の音作りは相変わらず古色蒼然とした響きながら、重厚長大な曲を並べて権威を示す方向から脱却したいというねらいがこの選



■河の恵みは国に満ち
スメタナ：モルダウ ヴェルディ：歌劇「アイーダ」より大行進曲 伊福部昭：SF 交響ファンタジーより ほか

安倍三振指揮 永田町管
弦楽団

曲にあるのかも知れない。

一曲目はスメタナの交響詩「わが祖国」から「モルダウ」。山合の小さな流れが集まって大河となって海へ向かっていくモルダウ川の姿を描いた今もチェコの人々にとって愛国心がかきたてられる曲であ

る。

この曲が冒頭に置かれたのはディスクの標題と関連づけてのことだ。つまり、初めは小さな人の営みであっても支流を巻き込み成長し大組織となり、そのもたらす富が国全体に広がっていくという理念で曲の構成がまとめられているという。

演奏は冒頭からしばらくは永田町管弦楽団としては最高のアンサンブルで活き活きと進むが、後半は息切れしたかのようにテンポが落ち、大編成の割に訴える響きがなく、冴えない。一部のパートだけはしゃいでも音楽としては落第。

つまり大河になっても富が行き渡らない状況になっている。成長戦略の根本が誤っているのではあるまいか。失敗は失

敗と認め、斬新な方法で最録音すべきだろう。

伊福部の作品は全体の中では異色な感じがするが意外によい。やはり伊福部の土俗的なリズムには我々の心を躍らせるものがあるのだろうか。当初三部作であとから追加された一曲を加え四部作ともされる作品だが、収録されているのはそれらとは異なる。未発表の作品かも知れない。

一説によればこの作品は映画「ゴジラ vs デングエボラ」のために作曲されたものの、映画の企画自体が立ち消えになり、曲も発表されないままになったというところである。

この夏行われたピアノコンクールを記録したCDである。曲は課題曲のショパンのエチュードから作品25の11、通称「木枯らし」と呼ばれている難易度の高い曲である。50あるトラックはこの曲ばかりだ。奏者は異なれど同じ曲ばかり50回も



■熱演の軌跡 第59回高校
ピアノコンクールの記録

聴く酔狂な人はまずしないだろうと思いきや、審査の過程ではもっと大変なことがあったのである。

今年から審査の仕方に硬式と軟式が定められた。硬式は打鍵のメカニックと集中力が重点、いわばハードウェアの競争、

それに対して軟式はソフトウェアの競争で表現力が問われる。

審査はまず硬式で10人を選抜し、その10人の中から軟式の審査で優勝者が決まる。なぜこのような方法を選ったかという、昨年のコンクールで上位を中国や韓国の在日二世たちが占め、その結果に對して一部の保護者から排外的意見が出、私情の入りにくい技術点でまずふるい分けをしようということになったのだ。

技術点の審査対象は課題曲を間違いないく弾くこと。一音でも間違えると次のステップには進めない。ミスのなかった奏者が10人以下になった時点で審査終了。

ところが、今年はレベルが高く、一日目の演奏ではだれもミスなし、翌日に持

ち越した審査でも16人が残り、結局10人が選ばれたのは三日目、なんと50回目の「木枯らし」エチュードの演奏のあとだった。最終審査の結果には今年も在日の人が入った。

一流演奏家になるには忍耐力や持続力が必要だが、こんな審査方法はひどい。教育現場に政治を持ち込まないで欲しい。

「熊蜂の飛行」をかけて
ヒトスジシマ蚊を退散！



蚊取り CD 専用プレーヤ発売

韓国政府肝いりで行われたオペラ公演の記録である。韓流ドラマで力を付けた舞台演出の成果を世界に、とりわけ北朝鮮にもアピールするねらいで開催された。

「トゥーランドット」は日本ではフィギアスケートの荒川静香の演技で使わ



■ブッチーニ 歌劇「トゥーランドット」

パク・クエ (S) 金正響 (T)
ほかパン・ギモン指揮ユ
ニオンコリアフィル

れ一躍有名になった。この選択に当たっては、わざわざ日本の金メダル選手にちなんだ曲を選ぶことはないだろうとの声が寄せられたが、すんなりと決定された。裏には荒川静香がキム・ヨナの八百長疑惑を擁護したと、少なくとも韓国内では

理解されているのが影響したといわれているが真相はわからない。

当然ながら主要キャストは韓国生まれで韓国で学んだ声楽家で占められている。トゥーランドット姫役のパク・クエはすんなり決まった。ストーリーの最後になって心を開くものの、冷酷無比な姫を演じるのだから、それまで決して笑みを浮かべてはいけない。この表情コントロールがうまいという点で彼女に白羽の矢が当たったのだ。

人選が大変だったのが求婚者のカラフを演じるテノール歌手。韓国生まれで韓国で学んだ条件が満たされても日本に留学したり日本の音楽家に指導を受けたりしていたらまずい。もちろん歌唱力は必

要。多くの自薦他薦の志願者がごとく落とされた。最終選考に残ったの一人。しかし、彼は本名ではないことがその日になって判明。しかも「指名してもらえたら本名を明かす」と開き直ったものだから、選考委員会は大混乱。夜を徹して議論が続き、だれも寝なかったそうだ。

結局、朝になって大阪生まれで在日韓国人二世の金正響が選ばれ、本人も本名と経歴を名乗った。日本と韓国の間にはいろいろな問題が山積しているが、双方ともかたくなな態度を崩さなかったら、何も解決しない。このオペラ公演が問題解決の糸口のひとつとなることを願っている。

早くもオペレッタ化

ブルーレイ・ディスク発売



花子、フィオレッタ、フローラは三人姉妹。国籍と父親は異なれど、母はマルタ。大ピアニストの意外な素顔を三人の花子を中心に軽妙なタッチで描く蓮・モンゴメリー作曲のオペレッタ。

日本ドラマオペラ化協会

本誌特別企画・「第九」と「九条」



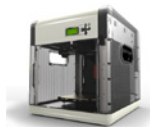
おお友よ、このようないさかいを止めて
平和の調べを歌おうではないか！



ベートーヴェン「第九交響曲」で謳われる友愛の精神と「憲法第九条」の不戦の誓いはノーベル平和賞を超えて人類が引き継ぐべき崇高な理念です。「第九」の歌詞において「歓喜」(Freuden)を「平和」(Frieden)に置き替え、さらに憲法第九条の不戦の誓いを歌詞に盛り込んだ「平和の歌」を公募します。

聴かないCDを3Dプリンタでリサイクル

CDに用いられているポリカーボネート樹脂を溶かしてどんな形にも成型します。



不要CDを内蔵の溶融機にかけると成形用のフィラメントが生成



溶融時に曲のタイトルを解析、作曲者のモンタージュ像ができます。左の作例はベートーヴェンとモーツァルト

モンタージュ像引換券

本券をCDに添えてお持ちの方の中から抽選で像を進呈

オントモグループ **オントモ燃処理**株式会社

有効期限 2014.10.1

編集後記

思えば、あの 9.11 のテロは混迷の 21 世紀の始まりを象徴するような事件でした。あれから人類は少しは知恵を蓄えたはずなのに、昨今の情勢はどうしたことでしょう。

たとえ皮肉の表現に終わっても、ちょっと高みから世界を見る人が増えていけば悪い方へ突き進むことの抑止力になると思うのですが。

バックナンバーのハイライト、真面目なエッセイなどを
http://members2.jcom.home.ne.jp/s_yanagawa/
で見ることができます。

レコード軽術 '14 年秋号（通巻第 53 号）

2014.10.8 第 1 刷発行

編集発行人 柳川誠介
〒195-0054 町田市三輪町 539-119
TEL&FAX (044) 989-8510
s_yanagawa@jcom.home.ne.jp

印刷・製本 家内工業

